

動

物

園

誘導保育の主題

附
屬
幼
稚
園

町田 行子

動物園云つても木製の動物ならぬ、古葉書・空箱利用の新體制動物園がひらかれました。これは保姆があらかじめ材料を揃へて働きかけたものではなく、こどもの遊びの中から自然につくられて行つたものでございます。

こどもたちは紙のおすまうを立て、そのまはりをドクドク叩いてお相撲ごつこをするのが大好きでありました。その形を葉書にうつしては自分の力士をふやし、めいめいのお抽出しにしまつて大事にくして居ります。あるとき、ひごりのこどもが葉書をまるいうづまきに切つて蛇を作り、これでお相撲をまらせ始めました。する

早速そのの眞似をすることども。

「蛇よりライオンの方が強いね」

「アツ、象の方が力が強いからおすまうは強いでせう」
對抗してくることども。

この様な會話から、動物園のいろいろの動物について話合ひが始められました。そして動物園を作つて、動物におすまうをまらせたり、運動會をひらいたり、お家ごつこをさせたりすることどもにきまりました。

選手用には強い動物を作りましたが、女の人達は小さい動物やきれいな水鳥が好きです。いくつかのグループにわかれ、數名が共同して動物・家・かこひ・名札・餌なごをつくりまします。

動物

觀察用に繪本や寫眞をおいておきます。

大抵の動物は古葉書を二つ折にして形をかき、二枚一緒

に切つて立たせまゝ（及川先生の昨夏講習會の動物型紙）。これはごまがひきりで、好きなものがやさしく作れます。

蛇 うづまきに切り、中心の方を持ちあげてまぐろをまいてゐるまぐろにします。

兎 ギンナンを平におき、桃色の色紙で耳を貼り、眼をかきます。

孔雀 ちり紙に色をぬり、鉛筆にまいてちりぬりめん紙をつくり、下をちりぬりしてひろげた羽根の形にし、葉書で作つた體に貼ります。

鶴首、脚の部分には割箸を用ひます。

動物の家

ライオン・虎の家 空箱を用ひて檻を作ります。岩は新聞粘土で作つたり、廣告紙を茶色か黒色にぬりガサガサにおいた紙の上からかぶせて岩らしくつくりまゝ。

出入口の開戸の把手には、桐の實又は豌豆をつけまゝ。象の運動場 藝當をさせる飛石を新聞粘土で作ります。

又、ポスターカラーやインク瓶の口のキルクをそのまま用ひてもよろしいと思ひます。

キリン、ラクダ、ウマ、ウシ、ブタ、カンガルー、ヒツジなどの家 家さかこひの柵を作ります。柵は箱のふちを一種幅位づゝ間をおいて切りおこして之を縦木に

し、たちおこしの分を横木にして縦木に一つおきに内外々々まぐまぐ通します。

兎りすの家 お菓子箱などのつめものゝ緑色の細いセロファンを草に致します。又時期によつては芒の穂をしいてもよいと思ひます。

小鳥の家 ボール紙の土臺にキビガラ（又はダンボールをまいた筒）を立て、小箱をのせます。巢はせきもの等のつめもので作ります。

檻の名札には経木の折を切つて、墨でかきます。

入場券は一枚づゝ動物の繪をかい作りまゝ。その切符を買つて入園し、自分の力士や選手をつれ出して、お相撲、かけっこ、高きびなき思ふまゝに動かして遊んで居ります。